

(様式1)

平成21年度 荒川区立第三中学校 「学力向上マニフェスト」成果と課題

本年度の指導の重点	努力目標・成果目標	予算執行	成果と課題、改善策
<p>小中一貫教育の推進</p> <p>小中一貫教育研究推進校として、小中の一貫した指導計画、指導方法等を開発、教員の資質向上を図り、授業改善を目指します。</p>	<p>【努力目標】 3年間の研究の総まとめとして、月1回以上ワーキングチームの協議・研究、小中での研究授業を実施する。</p> <p>【成果目標】 小中学校一貫性のある有効な指導計画を開発し、指導方法や工夫改善点については、11月の研究発表会やホームページ上でその成果を公表する。</p>	<p>報償費（講師代） 荒川区小中一貫教育研究推進校予算で対応</p> <p>消耗品 荒川区小中一貫教育研究推進校予算で対応</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①3年間の研究まとめとして、小中一貫教育の研究活動、研究リーダー会を予定回数以上実施、また、毎月の研究授業、協議を实践し11月20日に研究発表会を終えた。</p> <p>②研究の成果については、指導案集、資料集の他、CD形式で研究成果をまとめ広く提供した。継続実践が課題である。</p> <p>【改善策】 今年度で3年間の小中一貫教育の研究を終え、今後は新設される汐入東小学校、汐入小学校と研究成果を实践に移し、実践状況の成果発表と9年間を見通した指導計画の精度を上げていく。</p>
<p>キャリア教育の推進</p> <p>キャリア教育の充実により「学ぶ意識」の向上を図ります。</p>	<p>【努力目標】 「5日間の勤労留学」を中心に据えて、「校内ハローワーク」「おもしろ探究授業」等、外部人材を活用し実施します。</p> <p>【成果目標】 学力向上調査の意欲に関する調査結果で、全ての項目で区全体を上回り<u>2ポイント上昇</u>を目指します。数値を公表します。</p>	<p>予算：決算 「未来を拓く子どもの育成」予算で執行</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①7月の「5日間の勤労留学」実施、11月には台風による当日中止となったものの、29業種で外部人材を確保し、「校内ハローワーク」の当日まで準備ができた。</p> <p>②1, 2月には「おもしろ探究授業」を16講座に専門家を招き実施できた。教科学習への興味関心を高めさせた。</p> <p>③キャリア教育推進による学習意欲向上への高まりの指標として、区学力向上調査の意識調査で、全ての項目で区全体より、社会対応力では2.1ポイント、学習を進める基礎的な力では1.7ポイント上回った。キャリア教育の定着が課題。</p> <p>【改善策】 今後、キャリア教育を充実させ、本校独自の行事を充実させる。教科の幅をさらに広げ、興味関心、学ぶ意欲の向上に向け、意識調査等で数値的な上昇を検証する。</p>

<p>基礎学力の定着</p> <p>基礎学力の定着を図る。到達度の下位層のレベルアップを図ります。</p>	<p>〔努力目標〕 外部人材を活用したティーチングアシスタントによる授業の支援を実施します。</p> <p>〔成果目標〕 20年度学力向上調査の達成率を全ての教科で<u>2ポイント上回る</u>ことを目指します。学力向上調査の結果比較により、細部にわたる到達度の変化を公表します。</p>	<p>報償費 予算： 決算： (区のティーチングアシスタント予算で対応・外部人材予算で支出)</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①年間を通じて20名以上のティーチングアシスタントを確保し、授業支援を行った。きめ細かな指導、対応により理解度を高める取り組みを行った。</p> <p>②今年度の学力向上調査結果によると、各教科の達成率は、全ての教科、項目で区の達成率を平均5.8ポイント上回った。個人の結果にはそれぞれ課題があり、個々への対応が課題である。 (詳細については本校ホームページで公表する)</p> <p>【改善策】 今後もアシスタントティーチャー等の外部人材の確保を積極的に行い、きめの細かい授業での指導を充実させ、学力の定着を図る。</p>
<p>補習による学力向上</p> <p>放課後、長期休業中に補習を徹底し、各レベルに応じた指導を展開します。</p>	<p>〔努力目標〕 外部人材を活用と教職員の協力で補習教室を強化します。きめ細かい指導により各到達度に応じた学力の向上を図ります。 今年度も夜間「三中てらこや」を継続実施する。</p> <p>〔成果目標〕 成績の二極分化の解消、学年格差是正を目標します。 荒川区学力向上調査の結果で分布状況を公表していきます。</p>	<p>消耗品費 (夜間三中てらこや用教材データベース購入代)</p> <p>予算：147,000 決算：147,000</p> <p>報償費 (「三中夜間てらこや」英語、数学外部講師費用)</p> <p>予算：514,000 決算：514,000</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①週2回「夜間三中てらこや」を英語と数学の2教科で夜間の時間帯19:00～21:00に実施した。</p> <p>②年間を通じて平均130人、年間60日以上実施する事ができた。年間累積7000人以上の生徒が参加した。</p> <p>③補修用教材を予算通り購入し、到達度に応じて指導を進めた。2極分化対策では、「三中てらこや」教科の英語、数学に下位の生徒が減少し、正規分布の結果が得られた。</p> <p>④各種検定の級別コースを新設や少人数学習コース等、2年目の実施に工夫改善を加えた。</p> <p>【改善策】</p> <p>①外部講師、コミュニティ・ティーチャー（保護者）の充実を図り、指導方法の改善に取り組む。</p> <p>②学力の全体的なレベルアップも含め、今後も「夜間三中てらこや」を週2回のペースで継続実施する。</p>

<p>各種検定による学力向上</p> <p>検定教材を充実させ、補習活動に活用する中で、検定試験に挑戦させ、学力向上を図ります。</p>	<p>〔努力目標〕 これまで以上に多くの生徒を各種検定に挑戦させる。準備の過程で、補習活動に取り組み、検定合格とともに学力向上を図ります。</p> <p>〔成果目標〕 各種検定で受験者数 <u>40人以上</u> を目指します。また、汐入小学校児童の受験参加を実現し、同時受験で向上心を共有化させていく。 検定結果を公表し、前年度との比較で <u>130%</u> の合格者を目指す。</p>	<p>消耗品費 (英検・漢検問題集購入) 予算：139,000 決算：139,000</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①各種検定に向け、あらかじめ土曜スクールを活用して、事前学習に計画的に取り組んだ。検定受験者数の増加、合格者数の増加に結びつけた。(汐入小の児童参加も実施)</p> <p>②小中の一貫性のある指導という点で、汐入小学校の希望児童にも英語検定の機会を設け、合同受験を実施した。</p> <p>③各種検定結果・・・受験者数、合格者数とも倍増以上の結果だった。(英語検定) 平20 受験者数107名(合格者数 82名 3級以上 25名) 平21 受験者数221名(合格者数156名 3級以上 75名)</p> <p>(数学検定) 2回目まで 平20 受験者数 82名(合格者数 30名 3級以上 11名) 平21 受験者数166名(合格者数 89名 3級以上 21名)</p> <p>※その他の検定についても同様な結果が得られた。</p> <p>【改善策】 来年度、各種検定受験者、合格者数ともに本年度の1.5倍を目指す。</p>
<p>図書館活用による 言語力の育成</p> <p>図書館の書籍のさらなる充実を図り、授業での活用を推進します。</p>	<p>〔努力目標〕 図書館の充実を一層図り、図書館利用率、図書貸し出し率を上げ言語力向上を目指す。また、各授業での計画的な活用を実施します。</p> <p>〔成果目標〕 図書館を年間 <u>200日</u> 以上開館します。図書館利用者数、書籍貸し出し数を <u>20年度比の150%</u>、貸し出し冊数 <u>月刊70冊</u> を目指す。授業での実施状況を公表する。</p>	<p>予算：決算 (創造力あふれる教育予算で対応)</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①長期休業中の全ての日に図書館開館を実施した。また平日の全ての日を図書館指導員、保護者図書ボランティアの参加を得て開館した。開館日は200日を遙かに上回り 230日 であった。</p> <p>②図書館利用状況 平20 貸出冊数 917冊・入館者数 3,915名 平21 貸出冊数1557冊・入館者数10,525名</p> <p>③コラボ授業(教員+図書館指導員の協働授業)を各教科で実施した。 総計13回実施</p> <p>④図書館支援授業(教材としての図書の取り寄せ等)の実施。 総計28回実施</p> <p>【改善策】</p> <p>①これまで同様の年間200日以上図書館を開館し、図書館の稼働率をと共に授業活用、学習センターとしての役割を高めていく。</p> <p>②コラボ授業、電子黒板を活用した図書館との連携による授業改善を実施する。</p>

<p>特別支援教育の推進</p> <p>個に応じたきめ細かい指導を行います。</p>	<p>〔努力目標〕 特別支援教育コーディネーターを中心に組織的に特別支援の生徒への支援を強化する。</p> <p>〔成果目標〕 「個別の指導計画」を作成し、個に応じた教育を進める。 生徒のニーズに合わせた指導や支援をするために特別支援コーディネーターを中心とする校内委員会を学期に1回以上設定し、検討する機会を設ける。</p>	<p>予算：特になし 決算：</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①特別支援教育コーディネーターを中心に外部専門機関への対応、組織的な対応を行うことができた。</p> <p>②「個別の指導計画」を作成し、随時対応するとともに特別支援コーディネーターを中心とする校内委員会を学期に2回以上設定し、実施できた。</p> <p>【改善策】 特別支援教育は重要な課題であり、様々なケースに対応できるように特別支援教育コーディネーターを中心に今後も組織で対応していく。</p>
<p>教員の授業力向上推進</p> <p>チャレンジする教師を育成します。</p>	<p>〔努力目標〕 「小中一貫教育研究推進校」の研究と合わせ、研究授業を実施し、外部講師による指導・助言により授業力の向上を図る。</p> <p>〔成果目標〕 月に1回のペースで研究授業を進める。各自の課題解決につなげるために選択課題研修や区主催の研修会、外部の研究発表会等に全教員1回以上参加させる。</p>	<p>予算： 小中一貫教育推進予算で執行済み</p> <p>決算：</p>	<p>【成果と課題】</p> <p>①毎月1回以上の研究授業、ワーキングチーム会議でのリーダー養成、研究協議等を計画的に実践した。専任の指導講師より指導を受けた。</p> <p>②11月20日に、3年間の小中一貫教育の研究発表会を行い、その準備の過程で、教員一人一人の授業力向上を図った。</p> <p>③区主催の研修会、外部の研究発表会等に全教員1回以上参加した。</p> <p>④都研修センターの研修に全教員の90%以上が複数回参加した。</p> <p>【改善策】</p> <p>①今後も計画的な教員の研修に組織をあげて取り組ませる。</p> <p>②荒川区教育委員会小中一貫教育研究推進校の研究成果を、汐入東小、汐入小、第三中学校を交えた3校で実践し、定着させる取り組みの中で教員の資質向上を図る。</p> <p>③各教科で9年間を見通した指導計画の完成度を上げ、広く公表する。</p>